

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	650 シルバー人材センター運営費等経費	会計	01	一般会計
		款	05	労働費
		項	01	労働費
基本施策	46 地元で魅力的な雇用の場をつくる	目	02	労働諸費
		細目	272	シルバー人材センター運営費等経費
行革大綱の重点事項番号		細々目	51	シルバー人材センター運営費等経費
担当部課	コード	191400		担当者氏名
	名称	産業建設部商工労働観光課		
		連絡先	43 - 2306 (内線) 370	

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	市内在住の高年齢者	※対象件数
成果(どうする)	高年齢者の雇用の創出が図れ、経済的自立が促進される。	
根拠法令・要綱等	高年齢者等の雇用の安定等に関する法律	
開始年度	平成 16 年度	関連事業
終了年度	平成 年度	
H21 事業内容	* 高齢者職業相談を年22回開催した。 * 伊賀市シルバー人材センター運営に伴う補助を行った。 * 高齢者いきいきサロン整備に伴う補助を行った。	
社会情勢の変化等	団塊の世代が60歳を迎え、少子高齢化に伴う人口減少社会の下で、活力ある経済社会を維持していくためには、年齢、性別を問わず能力に応じ働くことが出来る社会をつくる必要がある。平成21年度から健康福祉部主催の「転倒予防教室」時にも高齢者職業相談を実施した。平成22年度に会員の活動拠点として作業、研修、会議等の用に供する施設シルバーワークプラザを整備する。	

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積(延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H20	H21	H22	H23
シルバー人材センター会員数		人	目標	1071	目標	1088
			実績	1008	実績	1083
高齢者職業相談		回	目標	10	目標	16
			実績	10	実績	22

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H20	H21	H22	H23
人材センターに対する仕事の受託件数		受託件数により、雇用の活発化がわかる	件	目標	6300	目標	6450
				実績	6036	実績	5818
				目標		目標	
				実績		実績	

投入コスト	H20 決算		H21 決算		H22 当初予算		H23 当初要求	
	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
直接事業費計(A)	13,600	14,600		10,100		10,100		
Aの財源内訳	国庫支出金		1,000					
	県支出金							
	地方債							
	その他	0	0				0	
一般財源	13,600	13,600	10,100	10,100				
事業投入人件費(B)	0.4人	2,880	0.4人	2,880	0.4人	2,880	0.4人	2,880
フルコスト(A)+(B)	16,480	17,480	12,980	12,980				

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	個人の方だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	○
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	○
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業	
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業	
	民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	
有効性	事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業	
	【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】	○
達成度	超高齢社会、核家族化の進展に伴い高齢者の経済的自立に向け職を求める会員の増加が見込まれる。	
	財政状況を考慮し、事業を休廃止した場合、市民生活への影響が大きい事業	○
効率性	【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】	
	高齢者の経済的自立が阻害される。シルバーの会員の増加が見込まれ、事業を必要とする市民が増加する。	○
有効性	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。	○
	基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高サービス水準や対象を見直す余地がある。	○
達成度	当初設定した計画を 100% 実施している。	【計画に遅れが生じている場合、改善策】
	予算の繰越の有無 有	
効率性	【予算の繰越がある場合、繰越の種別】	繰越明許費
	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。	
有効性	基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。	
	【事業名】	
達成度	受益者負担を求めることができる事業である。	
	全体コストにおける負担構成は適正である。	○
有効性	コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	受託の業種の拡充及び事務費経費の見直しを働きかけ、シルバーワークプラザ整備後平成24年度までに10%程度削減する。
昨年度の取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいる 【詳細】 運営補助費を30%削減した。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	松本 浩典
事業の方向性	【方向性】 現状維持 【理由】 平成22年度に補助金30%削減したことに伴い昨年度の評価結果に基づく改善策を履行した。平成22年度にシルバーワークプラザを整備し、更なる受託業種の拡充に取組み補助金削減を模索する。
現時点における課題、その他	社会情勢もあり受託件数が減少、会員が増加傾向にある。高年齢者の安定的な就労の場の提供と安定的な生活が困難になることが懸念される。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	平成22年度にシルバーワークプラザを設置することにより受託業種の拡大を図るとともに会員の経済的安定を図る。